

令和5年度 佃中学校 外部評価報告書

評価委員：小川 建司 岡渕 貴幸 三森 寧子 木切倉 朗 片山 英治
青柳 聖真 熊谷 芳紀 藤山 由仁

報告書作成者：青柳 聖真

評価時期 令和6年3月

重点目標1 確かな学力の定着

「課題の解決に向けて自ら考え、協働して課題解決できる生徒の育成」

- ・生徒アンケートの肯定的評価が8割を越えていることから、概ね達成できたと考える。粘り強さの観点である「苦手な教科の克服」に関しては、否定的な評価をしている生徒に対しては、個別に具体的な取り組み方を指導していくことを行ってほしい。令和4年度の肯定的評価が51,1%から82%になっていることは高く評価できる。その要因は何か明確にしておきたい。
- ・保護者アンケートの「学校は個に応じた指導を徹底し、生徒に基礎学力が身につくように教えてくれる」の肯定的評価は65%と他の項目に比べ低くなっている。生徒アンケートでは、「授業の内容がよく分かる」の肯定的評価が93%、保護者アンケートの「学校は、学習内容は分かりやすく工夫された授業をしている」では、73%、教員アンケートでは、17名中12名である事を考えると、質問項目の中に2観点があり、どちらかが低くなっているのかそれとも両方なのか、この乖離の要因を把握するための検討が必要となる。たとえば、生徒アンケートに「基礎学力は身についているか」を入れるなど。
- ・掲げられている目標については、概ね達成されている印象を受ける。生徒による評価が全体的に前年度より高くなっており、前向きな生徒の姿勢がうかがえる。しかし、全員の生徒がそうでないことも意識し、個別の支援を要することも留意する必要がある。

重点目標2 豊かな心を育む教育の推進

「相手の立場や背景を想像し、考えや意見を理解できる生徒の育成」

- ・生徒アンケートの令和4年度・5年度と経年比較でも、自己肯定感が高いことは高く評価できる。学校の教育活動の成果と考える。
- ・概ね9割以上の肯定的評価であることから、ねらいは達成していると考ええる。
- ・「行事や諸活動に意図的に参加し、自分の良さを生かしていますか」が83%と高い数値であるが他の項目と比較して低いことは学校としてどう捉えるのか。
- ・保護者アンケートの「生徒は地域の行事やボランティア活動に進んで参加している」を入れて評価している意図は何か。令和4年度38%、令和5年度46%と上がってはいるものの数値的には課題がある。時間が無いのか、活動する場が少ないのか、ここを学校としてどう判断しているのか。
- ・掲げられている目標については、おおむね達成されている印象を受ける。生徒自身の自己肯定感の高まりを感じさせる結果である。また、他者の存在を意識し、学びあう大切さを実感していると思う。

重点目標 3 良好な教育環境の推進

「生徒が安心して登校し、満足して下校できる学校」

- ・生徒アンケートのどの項目も85%を越え、学校の教育活動の成果を上げていると考える。
- ・規範意識の高さは大いに評価できる。
- ・「学校は生徒の問題や悩み、トラブルなどを見逃さずに相談にのったり指導したりしている」の肯定的評価は令和5年度62%、令和4年度63%と低い傾向がある。一方、教員のアンケートでは94%と高くなっている。この乖離をどう捉え改善を図る必要があるのか。
- ・「分からない」の25%の理由を知る必要がある。自分の子どもに相談やトラブルがなかったから分からないのかなど。令和4年度23%、令和5年度25%と変わっていないことも気になる。
- ・掲げられている目標については、概ね達成されている印象を受ける。

「学校生活が楽しい」という回答が多いことは、新型コロナウイルス感染症が5類になり、緩和されたことの影響が大きいといえる。また、「相談がしやすく適切に対応している」ということを生徒が感じており、教師自身もそのように回答していることは素晴らしい教員組織である。

その他の意見

- ・学校評議員会、外部評価員会の会議を通して、校長の経営方針が評価され、学校と地域の連携が図られていることがよく分かった。今後もさらに検討内容を生かした改善を進め、アフターコロナの佃中学校の伝統を確立してほしい。
- ・教員向けのアンケートの項目をみると、指導できたか、できているか、取り組んだか、といったチェック機能の意味が強い。評価には重要かもしれないが、同時に教員のメンタルヘルスの現状、職務上の困り感、生徒が抱えている課題についてなどもみていく必要があると考える。
- ・学校は家庭や地域との連携として「じぶんログ」の活用を進めているが、この部分の評価がアンケートからは読み取れないので効果検証ができにくい。また、次年度は「デジタル技術を活用した情報発信」と「アナログでの情報発信」を分けて実施するとよい。
- ・重点項目の観点及び質問項目を精選し、経年変化を見るものと単年度の成果を見るものの仕分けをすると、学校が改善策を検討しやすくなると思う。
- ・保護者が学校のことをわかるという回答が増えているのは新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、学校行事にも参加しやすくなったことも影響しているであろう。ただ、教育活動への参加という点ではばらつきがある。設問の意味が伝わっていない可能性もあるかもしれないが、保護者が教育課程を理解し参画することは難しいと考えられる。